

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	各居室担当者からの情報を基に介護計画を作成しているが、作成後に入居者の事情(ADL他)が大きく変化することがしばしばあり、再作成が遅れたり、ご家族との話し合いまでに時間がかかる事が多々ある。	これまでは3ヵ月毎に見直しを行ってきたが、事情の変化により早く対応すべく1ヶ月単位で入居者の状況把握を行い、常にメンテナンスされた最新の「介護計画」が存在する状態にしておく。	ご家族が入金、その他で訪問された際にも、状況に応じて「介護計画」を見て頂き、修正や変更を行っていく(変更時期やカンファレンス時だけにとらわれない対応)。入居者、スタッフ、家族との協調により、3ヶ月の間に4~5回のモニタリングを行う。	6ヶ月
2	6	「身体拘束しないケアの実践」について再考の必要性あり。不穏や不眠になられる入居者に対して、安易に薬に頼るのではなく、事前の対策(環境設定、声掛けの仕方)が更に必要な状況である。	薬等に頼らず、入居者が不穏や不眠にならない環境を作る。	ミーティングで検討し、ご家族の声を今以上に聞く。またスタッフが「身体拘束に関する勉強会」に積極的に参加する。	3ヶ月
3	33	入居者の健康状態や認知症度合が重度化した場合、ホームでの生活が困難となるケースもあるが、ご家族によって要望が異なり、ホームの方針との間に差異が生じる事もある。	入所時だけでなく、「退所」についても条件を具体化し、明確にする。	これまでの「契約書」、「重要事項説明書」にある「退所の条件」についての記述内容を分かりやすく変更する。	3ヶ月
4	35	災害時の避難方法や防災対策について見直すべき点がある。また防犯についての対策も進める必要がある。	避難路や方法を明確にするだけでなく、万一の事態に備えたスタッフの役割も決め、全員に浸透させる。	運営推進会議などで近隣地域との連絡・連携体制について相談する。又、消防団との話し合いの時間を持つ。	6ヶ月
5	2	地域との交流については未だ特定の方々のみであり、拡大されていない。またグループホームとしても浸透できていない。	地域に密着し、行事等でも住民の参加や協力がしやすい雰囲気を作る。更には「見学しやすい」体制にする。	「運営推進会議」にて町会の方に、ホームについての報告(行事や取り組み等)を行う。又、現在休止している「広報」を再開する。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。